

# コウヨウザン雄花の花粉飛散後の落下について

近藤禎二・山口秀太郎・生方正俊・(森林総合研究所林木育種センター)・大塚次郎 (森林総合研究所  
林木育種センター九州育種場)

## 【はじめに】

コウヨウザンは中国、台湾原産のヒノキ科針葉樹でわが国にも植栽がみられわが国の新たな造林樹種として期待されている。このような中、コウヨウザンの雄花生産量を把握するためにトラップを用いて花粉飛散後の雄花の落下量を調査したが、花粉飛散後も落下せず着生した位置に残存している雄花がみられたことからその実態について調査した。なお、本研究は、平成 29 年度農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「西南日本に適した木材強度の高い新たな造林用樹種・系統の選定及び改良指針の策定」によって実施したものである。

## 【方 法】

茨城県日立市に所在する森林総合研究所林木育種センターの構内に植栽されている 22 年生コウヨウザンのうち雄花がよく着生していたクローン A の 2 個体の雄花数を 3 月 22 日に計測し、その後 4 ヶ月間、残存数について約 1 ヶ月ごとに調査した。雄花は地上 1.5m~2m の範囲にあるものについて、個体 1 では 3 箇所、個体 2 では 7 箇所について雄花数を計測した。

## 【結果と考察】

1 箇所当たりの雄花数は、個体 1 では 27~28 個、個体 2 では 13~18 個だった。両個体とも 6 月までは漸次落下し、個体 1 では約 4 分の 1 の雄花が落下し、個体 2 では約半分の雄花が落下したが 7 月になっても残存数はあまり変わらなかった。林内にトラップをおいたスギの雄花生産量調査では 6 月ないし 7 月末までにトラップを回収し、その中の雄花量を調査しているが、コウヨウザンでは 7 月末においても半分以上の雄花が落下せずに残っていたことになり、コウヨウザンの雄花生産量調査をスギと同じやり方で調査しても正確な推定が出来ない可能性があることが明らかになった。今後調査を継続するとともに、別のクローンでも調査し、この性質が一般的なものであるかどうか確認する必要がある。

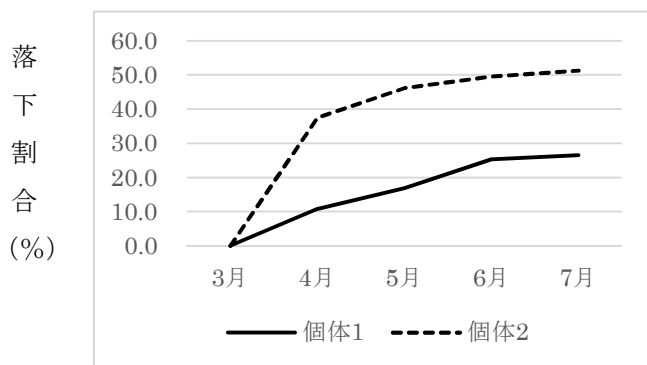


図. コウヨウザン 2 個体の雄花の落下状況